

サンデー毎日 平成 25 年 3 月 17 日増大号

復興の暴挙 宮城県・七ヶ浜町

軽井沢と並ぶ有名避暑地にコンクリート防波堤

▼「代わりに森の堤防」と立ち上がった著名人の名前

復興という美名の下に隠れた”暴挙”の現場が、杜の都・仙台市から北東へ約 20 キロの場所にある。宮城県七ヶ浜町の花淵浜表浜。長野県の軽井沢や野尻湖と並ぶ「日本三大外国人避暑地」として知られる名所だ。

「明治時代中期以降、おもに米国人宣教師が夏の暑さを避けようと別荘を建てたのが始まりです。軽井沢のような派手さはなく、ひっそりとしているのが特徴で、現在は別荘と永住者を合わせて約 50 戸。彼らは今も夏は砂浜で海水浴を楽しんでいます」（地元の住民）

そんな松島にも近い景勝地に巨大コンクリート建造物が出現しそうだ。

「数十年から百数十年に 1 回」の津波に耐えられるものとする国の中央防災会議の方針を受け、被災地ではコンクリート防潮堤建設計画が具体化。たとえば宮城県の発注分だけでも、

「総延長 163 キロで事業費は約 3140 億円。ほとんどが国からの補助金です。実施 275 ヶ所のうち、既に東松島市や石巻市など 52 ヶ所で契約・着工していて、2016 年 3 月までに全ての工事を完成させる予定です。」（同県河川課）

国土交通省や市町村発注分を加えれば、総延長はさらに延びる。防潮堤の高さは気仙沼市本吉海岸で最高の 14.7 メートルにまで達し、北部の唐桑半島で 8.0～11.3 メートル、南部の仙台湾南部海岸で 7.2 メートル。ただしあくまで「数十年から百数十年に 1 回」の津波向けで、震災級の巨大津波に対応するものではないという。

要らないのに“押し売り”

このコンクリート防潮堤を一律に造る行政側の動きに「待った」をかけているのが、地元の宮城県議会だ。昨年 3 月、自民党から共産党まで全 59 議員が参加し、「『いのちを守る森の防潮堤』推進議員連盟」（会長・相沢光哉県議）が発足した。相沢氏は「コンクリート防潮堤は“万里の長城”のようなもの。地下水や海の微生物など生態系に悪影響を与えるし、景観を損ない観光面でも打撃を受けます。」と批判し、こう明かす。

「ガレキや、ヘドロをはじめ津波堆積物などの災害廃棄物は、焼却やリサイクルをしている業者による『利権構造』の中に組み込まれています。焼却しないで埋めてしまう宮脇昭・横浜国大名誉教授の『いのちを守る森の防潮堤』構想ではカネにならないため、賛成論が広がりにくいんです。」

政府は、ガレキのうち木質系についてはメタンガスが発生するなどして廃棄物処理法に抵触するため、活用に難色を示している。

「村井嘉浩・宮城県知事の考えとしては、『すべてのガレキを埋めると違法になり、訴え

られれば大変なことになる』ということでしょう。でも、未曾有の大災害でした。国会同法を改正するか特例を設けてほしい。そうすれば住宅廃材なども含めて『森の防潮堤』に埋めることができ、処理も早く済みます」(相沢氏)

その相沢氏をはじめとする議会側の理論的な“支柱”が前出の宮脇氏だ。「森の防潮堤」は、被災地のガレキと土砂でマウンド(植樹地)を形成し、タブノキ、ヤマザクラ、ヤブツバキなど高さが異なる常緑広葉樹を植え、津波の被害を防ぐという構想。ガレキを運搬するというコストが削減できるうえに、燃やさないため環境面でも優れ、15~20年後には高さ40~50メートルの豊かな森に育つというわけだ。

地元からは、仙台藩主・伊達家ゆかりの輪王寺(仙台市青葉区)の日置道隆住職や、同市出身の俳優・菅原文太らが宮脇氏の構想に賛同。菅原氏は、震災から丸2年になる3月11日、東京・元赤坂の明治記念館で開かれる「3月11日 日本人の原点『祈りの日』式典(世話人代表・村上正邦元労相)に宮脇氏とともに出席し、「森の防潮堤」推進を呼びかける。菅原、村上両氏らの決起に応じ、国会でも超推進派議連を作る動きが出ているという。

かつて「コンクリートから人へ」をスローガンに掲げたのは鳩山由紀夫元首相時代の民主党だが、今回は民間の著名人らが「コンクリートはノー」を合言葉に立ち上がった形だ。

——再び、七ヶ浜町の外国人避暑地。遠藤喜二議によると、ここでもコンクリートに反対し、「森の防潮堤」を作る構想がある。近くで呉服店を営む稲妻公志さん(64)はこう語る。

「震災後、これまではとにかく『生きる』ことを優先してきました。しかし(二年たって)、冷静に考えてみると、コンクリート防潮堤建設のようなバカな話はありません。しかも住民には十分な説明もなく、みんな『コンクリートはいらない』と思っているにもかかわらず、強引に造るといふ。まるで“押し売り”です。同じカネ(税金)をかけるのなら有機的な『森の防潮堤』のほうがいい。そうすれば、夏には森の中で散策も楽しめます。コンクリートという無機質なものを一方的に造るのはどう考えてもおかしいんですよ」

本誌 青木英一